

日本福祉大学 2020 年度論文掲載料補助 報告書

論文著者 所属・職 : 教育・心理学部・教授
 氏名 : 中村 信次
 論文題名 : Orientation-defined visual rotation
 significantly affects observer's perceived
 self-motion

単著・共著の区別	単独執筆
掲載雑誌名	Journal of Vision
掲載雑誌 IF (インパクトファクター)	1.83
掲載ページ	Vol. 20(15) pp. 1-12
掲載雑誌 URL	https://jov.arvojournals.org/article.aspx?articleid=2772103
発行年月日	2020 年 12 月 23 日
雑誌出版社	Association for Research in Vision and Ophthalmology
論文抄読	<p>1. 概要</p> <p>視覚刺激運動に伴う自己身体運動知覚 (vection) を駆動する視覚刺激の特徴を分析し、これまで vection を有効に誘導しえないと考えられてきた非輝度定義視覚運動が十分な強度の自己運動知覚を生起させることを見出した。</p> <p>2. 方法</p> <p>Fractal Rotation と呼ばれる方位定義視覚運動 (orientation-defined visual rotation) を vection 駆動刺激として用いた心理物理実験を実施した。</p> <p>3. 結果</p> <p>Fractal Rotation は、視覚刺激の実際の回転運動 (real rotation) よりも弱いものの、十分な強度の自己回転運動 (roll vection) を誘導可能であることが複数の心理実験により明らかにされた。</p> <p>4. 結論</p> <p>これまでの vection 研究においては、視覚刺激の輝度定義運動が存在しない刺激布置においては自己運動が生起しないと考えられてきたが、本研究により初めて非輝度定義運動が自己運動を引き起こすことを明らかにした。この結果は、視覚情報に基づく自己運動知覚生起機序を検討する際に非常に重要なものとなる。</p>